

# ジュニア指導の実際 世界の国から

昨年に続き、ジュニアにキンボールスポーツを指導されている方をクローズアップしました。今回はカナダ、ベルギー、日本でジュニアの指導にあたっている方からお話をお聞きしました。

子どもの頃からキンボールスポーツに親しむ環境にあるカナダからは昨年フランス・ナント市で開催されたワールドカップでカナダ女子チームのヘッドコーチを務めたMarc-André Morinさん、ヨーロッパからは

ジュニアの育成に定評のあるベルギーから現在小学校低学年生の指導にあたっているBenoit Pironさん、また、日本からは第12回キンボールスポーツジャパンオープン・チャンピオンズカップのチャンピオンの部女子において見事準優勝を果たした中学生チームのBIG THUNDERを率いる酒井英登さんにお話を聞きました。

みなさんの地域でのジュニア指導のヒントになれば幸いです。

## Marc-André Morin (カナダ)



私のキンボールスポーツ歴はカナダの他のプレーヤーや指導者とは一風異なります。通常カナダのプレーヤーは小学生でキンボールスポーツを始め、10年から15年プレーします。私の場合、友人に誘われて20歳でこのスポーツに出会い、その後しばらくしてケベック州で最上リーグであるシニアAAAの選手となりました。そして、プレーを始めて6ヶ月後には小学生の指導を始めました。シニアAAAに参加した理由は、この国の最高の選手からいろいろなことを学び、それを小学生に教えたいと思ったからです。現在、私は小学校の体育館で18時30分～20時30分の水曜日に男子を同時間の木曜日に女の子を指導しています。

小学生を指導する上で困難なことは、真剣にスポーツに取り組みたい児童もいれば、単に楽しむためにスポーツをしたい児童もいることです。指導者としてこの両者のバランスを取るのが難しいのですが、両者ともに満足させることが指導者の責任です。キンボールスポーツは25パーセントが体力的なもので、75パーセントが精神的なものと言えます。試合中のストレスに対処し、戦略を理解し、時間管理をしながら自分のチームに有利な試合運びをすることが常に勝利するために必要不可欠なことです。例えば、残り20秒の時点で2点差で有利に立っている場合、試合を早く進めるべきではなく、時間を十分に使って他チームにヒットすればいいのです。

私は5年前から同じチームの指導をしています。来年はメンバー全員が16歳以上のプレーヤーが属するシニアリーグに移ります。カナダではこんなに長い間一つのチームのコーチを続けるのは珍しいことです。たいてい、チームが所属するカテゴリーが進む毎にコーチは変わります。長年同じチームのコーチをしているということもありますが、よくないこともあります。メンバー全員の長所や弱点を知り尽くしているので、良い面をどのように引き出せばよいか分っています。しかし、その半面コーチを友人と勘違いし、練習中や試合中もそのような態度で接する児童もできます。コーチとして指導中は決して感情的にならず、自制心を保ち、

自信に満ちた態度で臨まなければなりません。そうすれば選手はコーチの自信を感じ、よりよいプレーをします。また、試合前にはプレーヤーに目的を思い起こさせ、集中させなければなりません。

以前、男の子のグループのコーチと女の子のグループのコーチを務めたことがありますが、それぞれに特徴がありました。男の子はとにかく動かたがり、長い説明を嫌います。指導通りにプレーしない時は、声を荒げ、怒っている態度を示すと私が何らかの理由で不満であることを理解します。一方、女の子は私が何を望み、何をしてもらいたいかを詳しく説明する必要があり、時間をかけて話し合い、私が望んでいることに対し彼らがどう感じているのかを理解しなければなりません。

前述の通り自分が今指導しているメンバーが来年シニアリーグに進みますが、そこでトップになってほしいと思っています。そしてトップであり続けてほしいと願っています。トップになることと、トップでい続けることは別物ですから。そうやって初めて私の指導方法が正しかったと証明されます。

## Benoit Piron (ベルギー)



オペル市にあるオペルクラブはベルギーの中でもキンボールスポーツが盛んに行われている地域の一つです。2000年9月にベルギーにキンボールスポーツという新しいスポーツが紹介されると聞きました。小学校の体育教師でもある私は新しいスポーツに興味があったため、体験会に参加しました。そこで、このスポーツは子どもたちの精神面や肉体面を鍛えるだけでなく、すべてを尊重する—自分自身やチームメイト、他のチーム、レフリー、観客など—ことに重きを置くスポーツだと分り、感動しました。

2001年に小学校と共同でオペルクラブを設立しました。18人の6年生(12歳)が毎週金曜日の12時15分から1時間行われる練習に参加し、ベルギー代表選手団のお披露目の時にはデモンストレーションを行うという幸運も得ました。2002年にオペルクラブは独立し、オペルスポーツホールで練習を行っています。私は8歳～10歳のグループと10歳～12歳のグループの指導を月曜日と木曜日の16時～17時に行っています。

ベルギーでは体育の授業のカリキュラムの基本は、年代に応じた技術を習得することにあります。バスケットやバレーといった種目ありきではありません。先生は技術が習得できると確信すれば、自由に種目を選ぶことができます。従って、学校や先生によって行う種目はさまざまですが、目的とする技術習得は同じです。キンボールスポーツは体育の授業のカリキュラムの中で多くの技術を身につける機会を与えてくれます。

スポーツの意義は相手に勝つことだという風潮が強くなってい

